

## ピンポイント・アタッチメント

## L-718PP

## 使用説明書



セコニック デジマスター L-718 に取り付けて、大判カメラのピントガラス面での輝度測定、コントラスト比測定、また反射光方式で被写体の細かい部分測定等を行なうためのアタッチメントです。

## 仕様

測定方法：反射光式測定

測定範囲：定常光 EV1～EV21 (ISO100)

ストロボ光 F2.8～F90.9 (ISO100)

サイズ：先端部20mm(直径)×高さ32.5mm×取付部32.5mm(直径)  
(受光部径3mm)

## I. 測定の準備

1. 取り付け方法 光球等のアタッチメントを外し、L-718PPの橙色の指標が受光部本体の着脱マークに合うようにはめ込み、時計方向に回してセットします。

## 2. 測定値補正の準備

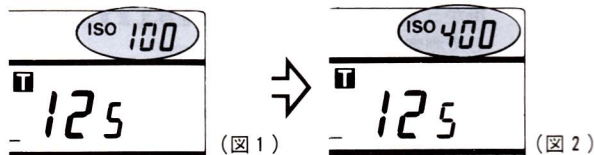
## 2-1 L-718PPの透過率特性による補正

L-718PPには測定値補正機構が内蔵されていませんので、これを付けることによって生じる光量の減少(光球使用時の $\frac{1}{4}$ )を補正する必要があります。次の②、③いずれかの方法で補正を行なってください。

但し、大判カメラのピントガラス面でコントラスト比測定を行なう場合は、補正の必要はありません(II 1-1参照)。

- ② メーターのISO設定値を、あらかじめ使用フィルムの感度の4倍に設定することによって補正を行ないます。

(例) ISO 100フィルムを使用する場合



(図1)

(図2)



<本社・営業部>

東京都練馬区大泉学園町7-24-14  
〒178 ☎03(978)2330

<大阪営業所>

大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル  
〒541 ☎06(263)1571

<名古屋営業所>

名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル  
〒460 ☎052(251)6201

<東京サービスセンター>

東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル  
〒162 ☎03(269)7243

- ③ ISO設定値で補正せず、測定値をカメラにセットする際にF値またはT値のいずれかを二段階調整(絞り込む方に)することによって補正を行ないます。

(例) 測定結果がF5.6・T1/60の場合

F11・T1/60 か F5.6・T1/250 にする。

## 2-2 ピントガラスの透過率特性による補正

大判カメラのピントガラス上に結像している被写体の輝度を測定し、その測定値に基づいて露出を決める場合には、2-1で述べたL-718PP自体による補正に加え、ピントガラスのもつ透過率特性による補正をも行なう必要があります。

先ず次の方法でピントガラスの補正係数を求めてください。

- ① ライトボックスを利用して補正係数を求めることができます。メーターにL-718PPを取り付け、ライトボックス自体の明るさとピントガラスを通した明るさをEVモードで測定します。

- ② 両測定値の差がピントガラスの透過率特性になります。

(例) 前者がEV13、後者がEV12と測定された場合、差は13.2-12.9=0.3EVになります。

L-718PP自体による補正に、このピントガラスの透過率特性による補正を加えた値がトータル補正係数になります。上記例の場合、

(L-718PP自体による補正值) + (ピントガラスによる補正值)  
2 + 0.3 = 2.3EV

- ③ 2-1②項で説明したように、あらかじめメーターのISO設定を調整することによって補正を行なうと便利です。上記例の場合2.3絞り分、即ち、ISOの設定を使用フィルムの感度の5倍に設定することによって補正を行います (ISO 100使用の場合、ISO 500に設定)。

## II. 測定及び露出の読み取り

### 1. 大判カメラのピントガラス面での測定

#### 1-1 コントラスト比測定

メーターにL-718PPを取り付け、EVモードで測定します。ピントガラス面にL-718PPの先端を押し当てて、ピントガラス上の画像各部の輝度を測定し、それら測定EV値の比を読み取ります。この場合は、L-718PPの透過率特性による補正を行なう必要はありません。

#### 1-2 露出の決定のための測定

##### 《定常光の場合》

- I 2-2 ③の方法でピントガラスを含んだトータル補正を行ないます。
- メーターを絞り(F)優先モードに設定し、F値を1.0にセットします(レンズの絞りを通してきた光りを測定するのですから、レンズの絞り値に関係なく、メーターを最小の光量が測定できる状態にして使います)。
- ピントガラス面にL-718PPの先端を押し当ててピントガラス上の画像各部の輝度を測定し、メーターに表示されたシャッタースピード(T値)を読み取ります。
- レンズを絞り込んだ状態で測定した場合、メーターを最小の光量が測定できる状態(F/1.0)にセットしてもまだ光量が足りず、E.u.マークが表示されることがあります。  
このような場合には、レンズの絞りを開放状態にして測定し、読み取ったT値をカメラにセットする際に、実行絞り値と開放絞り値との段差分だけシャッタースピードを調整して下さい。

(例) 測定時のレンズの開放絞り値がF/5.6、撮影時の絞り値をF/22にセットする場合、その間の段差は4段あります。

読み取られたT値はF/5.6に対応する値ですから、これをF/22に対応する値に置き換えなければなりません。

この例の場合は差が4段ですから、メーターのUPキーを4回押すことによって撮影時の絞り値F/22に対応するシャッタースピードが得られます。

(読み取られたT値が $\frac{1}{4}$ 秒の場合、  
F/22に対応するT値は4秒になる)

##### 《ストロボ光の場合》

- I 2-2 ③の方法でピントガラスを含んだトータル補正を行ないます。
- メーターをフラッシュ測光モードにセットして(自動的にT優先となる)使用するシャッタースピードを設定します。

- レンズの絞りを開放にセットします。
- ピントガラス上の画像の測定したい箇所にL-718PPの先端を押し当ててストロボを発光させ、メーターに表示されたF値を読み取ります。
- 読み取られたF値とF/1.0との段差を計算し(図3参照)、その段差分だけ開放絞り値より絞り込んだ値が、⑥で設定したシャッタースピードに対応したF値になります。

(例) 読み取られたF値がF4  $\frac{1}{4}$ 、開放絞り値がF/5.6の場合  
読み取られたF値とF/1.0との段差(=4.6段)だけF/5.6から絞り込んだ値、F/22  $\frac{1}{4}$ が⑥で設定したシャッタースピードに対応する適正F値です。

#### (図3) 絞り値と段差との関係

絞り	1	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32	45	64	90
段差	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

図3は絞り値と段差との関係を示す表です。絞り値は1から90まで、段差は0から13までです。絞り値1.4から5.6までの範囲は4.6段の差があり、絞り値5.6から22までの範囲も4.6段の差があります。

### 2. 反射光方式での部分測定

被写体の細かい部分、または小さい被写体を反射光方式で測定する場合は、次の手順に従ってください。

- I 2-1 ①または②いずれかの方法で、L-718PP自体の補正を行ないます。
- 被写体の測定は、通常の反射光測定のやり方で受光部に取り付けたL-718PPの先端を被写体にむけて測定します。受光角は約30°です。  
被写体にメーターを近付けた際、被写体に当たっている照明の状態に影響を与えないよう気を付けて下さい。
- この測定方法は、定常光、ストロボ光両測定モードで使用できます。

#### 全般的な注意事項

- ピントガラス面で測定する場合、L-718PPの先端がピントガラス面から浮いているとレンズを通した光り以外の外光が入り、適正な測定ができません。浮かないようにきっちり押し付けて測定して下さい。  
尚、正確を期するため黒布を被って測定することをお薦めします。
- ピントガラス面に引かれている線等がL-718PPの受光部に掛かっていると、測定値に影響を与えます。その部分を外して測定を行なってください。
- L-718PPの受光部は小さいので、ちょっとしたゴミでも測定値に影響を与えます。常にクリーンな状態を保つよう気を付けて下さい。